

学校法人 岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校

2023 年度 第2回 教育課程編成委員会

日 時	2024 年 3 月 15 日（金） 16:30～17:30
会 場	横浜リハビリテーション専門学校 604 スタジオにて実施
出席者	斎川 大介 藤沢湘南台病院 リハビリテーション科 理学療法士 錠内 広之（一社）神奈川県作業療法士会 監事 野々垣 睦美 クラブハウス すてっぷなな 統括所長 作業療法士 瀬古 恵美 教務部 部長、 水島 眞由美 作業療法学科 学科長、 田中 千恵 理学療法学科 副学科長、机 里恵 作業療法学科 副学科長
欠席者	鈴木 仁人（公社）神奈川県理学療法士会 理事； 業務（帯同）のため欠席のご連絡を頂いた。 橋本 卓雄 校長；別会議のため欠席 中村 啓文 理学療法学科 学科長；体調不良の為、欠席

内容

1. 教務部長挨拶（瀬古）

昨日 14 日（木）の 23 期生の卒業式、及び第 59 回理学・作業療法国家試験動向と今月 21 日の国家試験合格発表の件についての報告を行う。

「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」の一部が改正され、2020 年 4 月入学生から適用され、カリキュラム改定においては、5 年ごとの見直しを当初予定していたが、コロナ禍もあり、現在のところ 2028 年度に改定が行われる予定である。

2. 岩崎学園並びに本校の教育活動について

● 理学療法学科カリキュラム新旧対応表にて説明（瀬古）

理学療法士及び作業療法士の学校養成施設における「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」が 20 年ぶりに見直され、本校では、指定規則の遵守及び選ばれる養成校としての特色あるカリキュラムの構築するために、2020 年度入学生（23 期生～）に対し、カリキュラムの見直しを行った。理学療法学科 27 期生より、より特色あるカリキュラムとして、「パラスポーツ」と「スポーツ障害の理学療法」を新規科目として申請した。また、統合科目として、「理学療法セミナー（前期）」「総合演習Ⅰ」→「総合演習Ⅰ」、「理学療法セミナー（後期）」「総合演習Ⅱ」→「総合演習Ⅱ」に統合した。高齢者の増加等社会的な問題もあり内容が増加傾向にあるため、「内部疾患の理学療法」を「内部疾患の理学療法Ⅰ」「内部疾患の理学療法Ⅱ」に振り分けた。

● 作業療法学科カリキュラム新旧対応表にて説明（水島）

高校生にわかりやすい魅力のあるカリキュラム名ということで、26期生より、基礎作業学を「eアクティビティ」と名称変更し、ゲームやVR等のデジタル教材を前面に出した科目名に変更した。また、「生活行為向上マネジメント学」を3年次から2年次に変更した。

27期生からは、コロナ禍明けもあり、臨床実習の見直しを行い、臨床実習枠においては、実習施設の登録申請等が必要であるため、「臨床見学実習」を「地域見学実習」、新規科目として「連携コミュニケーション演習」を地域作業療法学の枠に変更した。統廃合として「基礎実習（介護老人保健施設）」「基礎実習 セミナー」を「基礎実習」に統合した。近年の国家試験問題にも地域や就労支援などが多く含まれるようになり、できるだけその内容を実習や学内授業に多く盛り込んだ授業展開を行うようにしている。

3. 教育課程編成委員会検討課題

新カリキュラムへの移行に関して、疑問やご意見があればお願いします。

錠内先生；地域や連携などの問題は、臨床でも必要とされている。学生の時に、ケアマネジャーや地域の相談員などに関わることも必要であると感じている。学生が直接かかわることは難しいかと思うがその点はどうか？

水島；カリキュラムに記載されている「連携コミュニケーション演習」は、地域で生活している障がい者や高齢者を学校にお招きして、学生が聞き取りを行う内容の科目になっている。1年次になるので、まずは、学生間で行って、それをベースに地域の対象者にグループで聞き取り面談を行うという形になっている。実際に、他職種の方と関わる時間は、外部での臨床実習が主体となるかと思われる。

野々垣先生；国家試験問題にも、地域や就労支援なども多数出題されるようになり、作業療法士の活躍の場が広がっていることを感じている。また、学生が授業内で地域の障がい者と関わることは、意味のある事で、その体験を通していろいろなことを感じてもらえたらと思う。就労においては、作業療法士の活躍領域も広がっているがどのような科目で教えているのか？

机；就労関係は、身体障害領域や精神領域の科目内の授業で一部に取り入れている。症例に関しては、各症例検討などで模擬症例として行っている状況である。

錠内先生；最近では臨床でも末期癌患者や慢性進行性疾患など、緩和ケアの理学療法や作業療法が必要とされているが、どの科目で教えているのでしょうか？

田中；理学療法学科では、「内部疾患の理学療法」で行っている。近年、高齢者の増加に伴い、心臓疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、腎臓疾患などの内部障害に対する理学療法が必要

とされており、本校でも時間数を増やして授業するようにしている。また、理学療法概論で ALS の当事者の方に講義に来ていただいている。

机；作業療法概論でも、理学療法学科と同様に ALS の当事者の方に講義していただいている。科目においては、身体領域の治療学等に取り入れている。

斎川先生；基礎分野の「人間と生活」の欄に、心理・倫理・教育学は他養成校ではなくなっているが、貴校ではしっかり教育できていることは素晴らしいことだと思う。スポーツ領域を前面に出していることは、高校生には魅力のある内容だと思う。カリキュラム全体を通して、指定規則の時間数より、多いのは良いことではあるが、授業を受けている学生にとってはどうであろうか？

瀬古；本校では、スポーツ領域に強みを持つ野々山という教員も在籍しており、高校生に人気のあるスポーツを前面に出して募集活動を行っている。2024 年度生においては、理学療法・作業療法学科共になんとか定員を上回る人員を確保できたが、今後も厳しい状況は続くものと考えている。

新カリキュラム改定以前は、もっと多い時間数であったが、担任が学生面談や国家試験対策などを行う時間として、空きコマを多く作るようにした結果である。単位数と時間数においては、指定規則の最低基準は遵守するのはもちろんのこと、学生に負担感を感じさせないような臨床で本当に必要とされるような授業科目を今後も取り入れて、検討していきたいと考えている。

今後、ご指摘の時間数は検討していくが、2028 年のカリキュラムの見直しにより、公衆衛生、災害支援、産業リハなどが授業科目の中に新しく加えられていくことになるのではないかと情報が入っている。

【欠席者（鈴木先生）のご意見】

- ・ 複数科目に分散していた「中級パラスポーツ指導員取得に必要な講義」を「パラスポーツ」という科目に集約した点については、東京 2020 大会以降、理学療法士がパラスポーツに関わる機会が増加しており、日本理学療法士協会や神奈川県理学療法士会も理学療法士のパラスポーツ支援を推進しています。そのような中での中級パラスポーツ指導員カリキュラムの実施は他校と比較しても魅力的であると思っています。さらにそれを一つの科目に集約することで資格取得に向けた学習効率が上がり、包括的にイメージすることができるので、教員と学生双方にとって良い変更だと思います。
- ・ 内部障害の理学療法は 3 年次に 2 コマ行っていたが、内容をより充実させるため、2 年次にも 1 コマ増設した点については、非常によいと思います。
- ・ スポーツ系の科目である「クリニカルスポーツ」に加えて、より実践的な内容を教授するため「スポーツ障害の理学療法」を増設された点については、入学者の中でスポーツ活動中の怪我がきっかけで理学療法士を志す方は少なくないと思います。そのため、ス

ポーツに関するカリキュラムの拡充は学生にとって魅力的であると思います。また新設された「スポーツ障害の理学療法」では、スポーツの基本動作や実践動作について学べる貴重な機会となり、その評価方法等は運動器疾患全般の動作分析にも応用できることから、多くの学生にとって有意義な時間になることが想定されます。一つ課題があるとするならば、両カリキュラムの実施時期がいずれも2年次であることが挙げられます。特に「スポーツ障害の理学療法」は実践的な内容であるため、3年次に実施できるとより理解が深まるのではないのでしょうか。

4. その他

次回、開催は、9月14日（金）又は21日（金）を予定している。

以上

文責；水島